

松阪市子ども支援研究センターだより

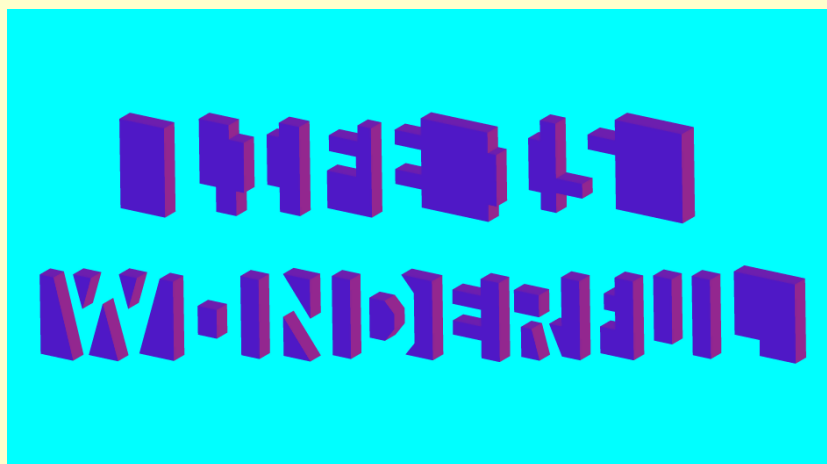
松阪市子ども支援研究センター〈TEL 26-1900 FAX 26-1901〉

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室」「やまゆり教室」

〈TEL 26-1900 FAX 26-1901〉 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

<見ることの重要性>



「だまし絵練習帖 ～基本の錯視図形からリバーспекティブまで～」 竹内龍人 誠文堂新光社 2010 年

「何が見える？」教室の子どもたちなら、教員が何も言わずとも絵を見るだけで、「○や!」「ちがうちがう、===やよ」「両方見えるんだって!」という楽しい反応があるのでしょうか。でも、ひょっとすると教室の中には「わからんし…」「ああ、アレね。物事の見方は一つじゃないってやつだね」といった冷ややかな反応もあるかもしれません。

「複数の見え方ができますか」

「それはどうしたら見えますか？隣同士言葉で伝えてください」

この発問は、研修講座 B-3 において、守田庸一三重大学教授が紹介してくれたものです。中学校国語 1 年「ちょっと立ち止まって」（著・桑原茂雄）の授業では、テキストを読むことから始めず、いくつかのだまし絵を見ることから始めたそうです。そして、この発問。中学生であっても、食い入るように絵を見ては、ああだ、こうだと隣同士で熱心に語り合う姿があったといえます。

テキストより先に対象をしっかりと見ることで、絵の内容が複数に見えることを実体験させます。次に、どのようにしたら見えるかを言語化させていくと、子どもたちは自然と筆者の表現に着目し（そうでなければ着目させ）、その表現方法を学ぶこともできます。そして何より意欲的な姿が現れます。試してみたいくなる授業ですね。

子どもたちが言いたくなる発問、考え動き出したいくなる課題設定、私たち教職員が大切にしてきたことです。しかし、守田教授が伝えたかったことはそれではありません。

「見る」ことの大切さです。そういえば、子どもたちは物語の挿絵からも豊かな発想（感じたことを表現）をします。テキストを読まずに挿絵を見ることは低位なことではなく、

文字や数が上位でもない、見ること・感じることの大切さを改めて感じた瞬間でした。今回は国語科の話でしたが、他教科でも十分活用できるものです。「見ること」から始まる授業を取り入れてみてはどうでしょうか。

<変化？進化！？>

今年度から来年度にかけ、皆さんの ICT 環境は大きく変わります。

(1) 指導者用 PC の入替

使用感はいかがですか？これまでの職員室据え置きではなく、順次教室等でもネットワークにつなげて作業ができるように進めています。新たな活用法や、困り感、解決策などありましたら教えてください。

(2) 1月の統合型校務支援システムの導入

「念願のシステム導入です」という期待の声も、「また、よくわからないものが導入されてしまう。ICT 音痴の私には負担増です」という不安の声も聞きました。もちろん覚えていただくことは増えますが、効率よく仕事ができる環境が整うと期待しております。まずは、使いやすい機能からの順次導入を考えております。教育活動への利活用を含め、時期が来ましたら説明会開催等、スムーズな導入支援をいたします。

(3) 3月の学習者用タブレットの入替

3月には契約期間満了を迎えるため、現行タブレットともお別れです。その際、契約時の全台数 12,350 台を破損・故障がない状態で返却する必要があるのです。各校での毎月末報告（タブレット端末の状態、台数の確認）をよろしくお願いいたします。

(4) 今年度の教育情報セキュリティポリシーの策定

「何にも縛らずに自由気ままに使いたい」その気持ちはわかります。しかしながら、皆さんもご存じの通り、すでに時代は、社会はそれを許してくれません。教育情報セキュリティポリシーは、学校、教育委員会が保有するデータや情報資産を保護し適切に管理するため、必要なものです。ポリシーの順守は自分たちの身を守ることにもつながります。ご理解ください。

<お知らせ>

